

# SPH 文部科学省指定 スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール

# 新時代を主体的・創造的に生き、知徳体をそなえ、地域の希望となり未来となり光となれ!

最先端の数値制御ロボット を自在に操る。 ち

研ぎ澄まされる 表現力・発信ナ

### 2年連続!

全国409校中の 23校が受賞! 県内初の快挙!

さんフェア新潟2019



を直口身伝ボ

は践メ

る的し。技力

### パテントコンテスト



対応である。 内6作品が最終審査へ そして「多機能ハサミ」が優秀賞。





## 3年間の取組の集大成





4学科連携の「水力発電」の研究 ポスターセッション

### アンケート自由記述項目に 見られる生徒の声(抜粋)

- ・わからない事などを、友達同士で教えあう機会 が多くなった。また、説明をする事が上手くなっ たような気がする。
- ・難しい問題でも、小さくわけて考えれば何とか なることが、実感として分かった。
- ・中学の時から、技術について興味を強く持って いて、ただ知りたい、ただ身に付けたいという気 持ちだったが、今はそれらを世の中に役立てたい という気持ちが新たに湧いてきた。
- ・ものを作る達成感、発表することの爽快感、み んなで悩むことの充実感を知った1年間だった。
- ・ポスターセッションで、大人の方や後輩達にプ レゼンするのが、こんなに楽しいとは思わなかっ t- .
- ・数値制御の考え方は、案外スムーズに理解でき この考え方は、他の分野においても広く応用 出来そうな気がしている。
- ・入学の時から、卒業したらちゃんと働ける人間 になることが出来るか不安だったが、今では少し だけ自信が出てきた。

# アンケート集計結果

国際ロボット展2019

令和元年度の生徒変容状況 ①課題発見力 ②論理的思考力 ③課題解決力 ④知識力 ⑤実践的技術力 ⑥外国語(英語)活用力 ⑦創造力 ⑧コミュニケーションカ ⑨社会人倫理力 ⑩主体性 ⑪発信力

1年生 60% 2年生 3年生 60% 60% 40% 10 20% 20% 0% 0% 0%

- ・各学期に1回ずつ、自己評価を実施。
  - ・学年が上がるにつれて、評価も向上。
  - ・⑤実践的技術力の1・2年生の評価が低いのは、授 業内容において基礎的なことが多いためと推測。

※レベルS、A、B、Cのうち、本科で身に付けたい力の目標レベルA以上の割合

----1学期 -2学期 3学期

・⑪発信力については、人前で話す機会 の少なさが、影響していると思われる がポスターセッション等の取組により、 3年生の高評価に繋がったものと推測

# 工学科」がいよいよスタート

車

2020年4月第1期生を迎え入れた新築校舎



地域で、このようなレベルの高い研究が行われてい ることに興奮した。素晴らしい技術であっても、その周 辺の環境が整い、採算が見合わなければ普及しない 現実に、もどかしさを感じた

地域で育まれた研究・技術に誇りを感じた。さらに、 この研究を発展させるため、何か出来ることはないか 高校時代のパテントコンテストの経験や、ビジネスプ コンテストの経験から考えてみたい



電池ナノ材料研究センターを見学し、最先端技術の現場を知る。



初めてファシリテー ショングラフィックに触 れた。発言内容をリア ルタイムに判断して、 論理的に記述してゆく 作業は今までのSPH の取り組みを生かすこ とが出来た



ご本人から人生の紆 余曲折を乗り越えた経 験や、大きなチャレンジ をしたお話をお聞きして 大変強い刺激を受けた。 自分の人生を真剣に考 一歩を踏み出す決 意が固まった。



科目「実践社会学」での「傾聴と対話」の取り組み。地域の社会人の方々から直接お話を聞き、 自身の内面と向き合う





ーカーの製作」で互いの技術を 融合し、レースへの参戦を目指す。

自分の得意な技術を チームのために役立て られた時、今までに感じ た事のない強い充実感 を感じた。社会人として 仕事をするという事は きっとこのような事だろ うと思う。今後の学業に 対するモチベーションが

地域にこれほど高い技 術力を持つ会社が、予 想以上に数多くある事に 驚いた。我々が地域から 期待されていることを肌 で感じた。技術力を真剣 に身に付けて、地域を支 えようという意識が、自 分の中の本気として湧き





後期のデュアルシステム「企業実習」へ向け、実習先 選択のために地域の企業の協力の下、ガイダンスが行 われた。